



2023年9月期

決算説明資料

東証グロース 証券コード：4427

株式会社 EduLab

2023年11月13日





1. 2023年9月期決算実績	2
2. 事業セグメント別実績	14
3. 2024年9月期業績予想	20



2023年9月期 決算実績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,750	百万円 △850	百万円 △1,200	百万円 △3,050	円 銭 △302.43
今回発表実績 (B)	7,061	△540	△616	△3,105	△305.07
増減額 (B-A)	311	310	584	△55	
増減率 (%)	4.6	—	—	—	
(ご参考) 前年実績 (2022年9月期)	9,758	△234	101	△818	△81.54

- 教育業界におけるテスト市場全体のCBT^(※)化の流れが引き続き堅調に推移したことに加え、当社グループがAI-OCR「DEEP READ」を提供する金融業界を始めとした業界全体におけるDX需要の高まりを受け、テストセンター事業及びAI事業における業績が想定を上回ったこと等により、売上高は前回予想を上回りました。
- 原価低減に向けた取り組みにより、主にテストセンター事業及びテスト・運営受託事業で売上総利益率が期初想定よりも改善しました。
- 販売管理費が前期比大幅に削減できたことも寄与し、その結果、2023年9月期は引き続き営業損失、経常損失を計上したものの、前回予想対比で営業損失、経常損失の損失幅は縮小しました。
- 親会社に帰属する当期純損失につきましては、将来に損失を繰り延べないため固定資産の減損損失を計上したほか、投資家保護の観点から保守的に各種引当金繰入を行ったことから概ね業績予想通りの水準となりました。

(※) CBT (Computer Based Testing) : コンピュータ上で実施する各種試験の形態。試験に関わる一連の作業の自動化を実現する。

2023年9月期 連結損益計算書

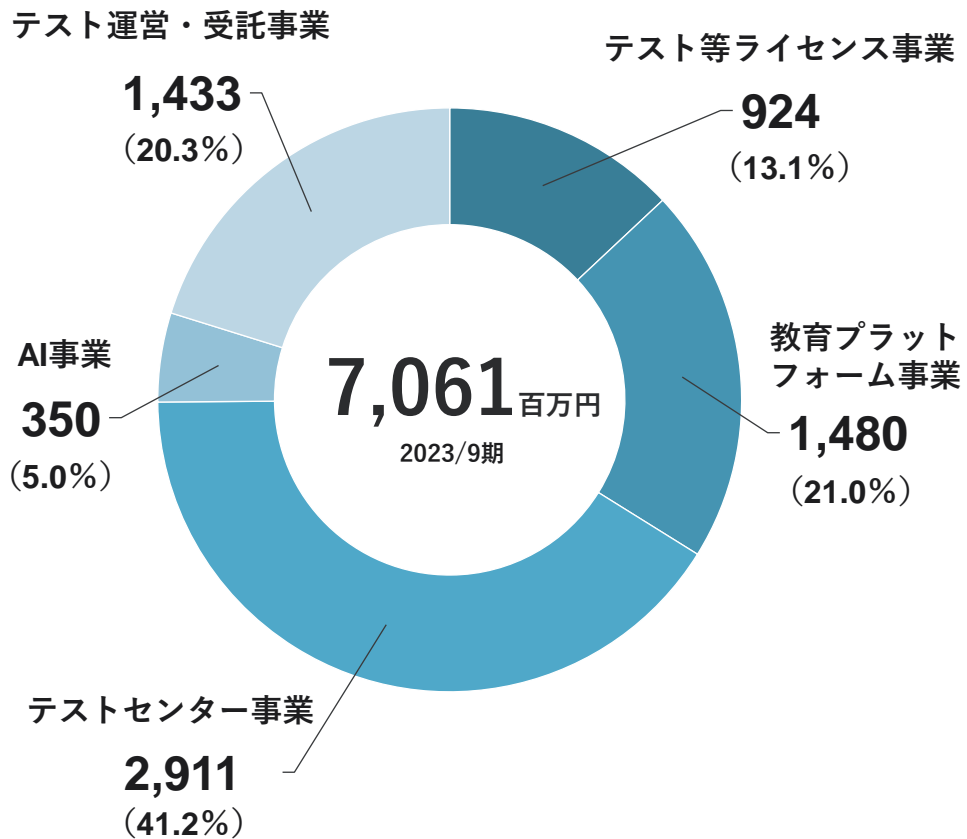
(単位：百万円)

	22年9月期	23年9月期	前年 同期比
売上高	9,758	7,061	△27.6%
営業利益	△234	△540	-
営業外収益	730	179	
為替差益	328	93	
投資有価証券売却益	267	-	
契約解約益	12	68	
営業外費用	395	254	
投資事業組合管理費	149	180	
経常利益	100	△616	-
特別利益	389	355	
固定資産売却益	-	333	
投資有価証券売却益	373	-	
特別損失	1,276	2,929	
減損損失	595	2,032	
投資有価証券評価損	200	268	
固定資産除却損	170	98	
特別調査費用引当金繰入額	234	67	
訴訟関連費用引当金繰入額	-	182	
事業構造改革引当金繰入額	-	105	
当期純利益 ¹	△818	△3,105	-

- テスト等ライセンス事業、教育プラットフォーム事業、AI事業、テスト運営・受託事業で減収となり、**売上高は前年同期比27.6%減の7,061百万円**となりました。
- 業務委託費や人件費の削減等により販売費及び一般管理費は前年同期比で減少したものの、売上総利益の減少を補いきれず、**540百万円の営業損失**を計上しました。
- 外国為替相場の変動に伴い、為替差益が前年同期比で減少したこと及び前年同期に計上した投資有価証券売却益が今期は発生しなかったこと等により営業外収益は前年同期比で減益となり、**616百万円の経常損失**となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、ソフトウェア等の減損損失に加えて、訴訟関連費用および事業構造改革にかかる費用等の引き当てに伴う特別損失の計上により損失幅が拡大し、**3,105百万円の親会社株主に帰属する当期純損失**となりました。

セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)



注：（ ）内の数字は売上高構成比

事業セグメント		22年9月期	23年9月期	前年同期比
テスト等 ライセンス	売上高	1,268	924	△ 27.1 %
	セグメント損益	268	81	△ 69.7 %
教育 プラットフォーム	売上高	2,593	1,480	△ 42.9 %
	セグメント損益	730	117	△ 83.9 %
テストセンター	売上高	2,900	2,911	+ 0.4 %
	セグメント損益	336	335	△ 0.4 %
AI	売上高	460	350	△ 23.9 %
	セグメント損益	△76	114	—
テスト運営・受託	売上高	2,706	1,433	△ 47.1 %
	セグメント損益	31	△24	—
全社費用		△ 1,523	△ 1,164	359百万円 減少

	2022年 9月末	2023年 9月末	(単位：百万円) 増減額
流動資産	9,091	5,293	△ 3,797
現預金	6,053	3,844	△ 2,208
その他	3,037	1,448	△ 1,588
固定資産	3,342	725	△ 2,616
ソフトウェア	1,717	0	△ 1,717
投資その他の資産	1,243	725	△ 517
その他	381	0	△ 381
繰延資産	4	2	△ 2
資産 合計	12,437	6,021	△ 6,416
流動負債	5,418	3,659	△ 1,758
有利子負債	3,093	1,872	△ 1,221
契約負債	935	422	△ 512
その他	1,389	1,364	△ 24
固定負債	1,984	476	△ 1,507
有利子負債	1,894	411	△ 1,482
その他	89	65	△ 24
負債 計	7,402	4,136	△ 3,266
純資産 計	5,035	1,884	△ 3,150
負債純資産 合計	12,437	6,021	△ 6,416

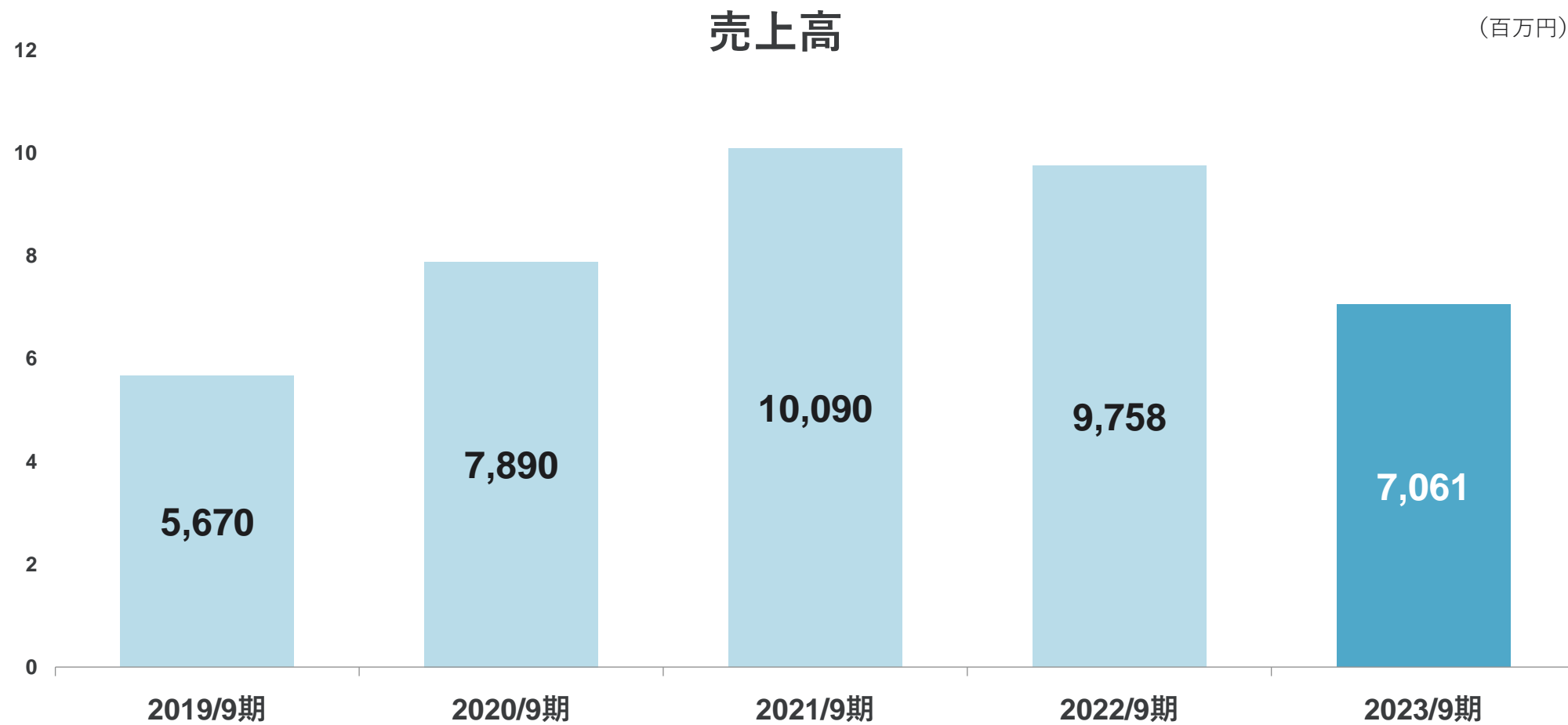
- 流動資産は、前事業年度末より3,797百万円減少
 - 現預金が2,208百万円減少した主な要因は、有利子負債の返済によるもの
- 固定資産は、ソフトウェアの減損損失等により2,616百万円減少減少した固定資産の内訳
 - ソフトウェア：1,717百万円減少
 - 投資その他の資産：517百万円減少
- 流動負債は、1,758百万円減少
 - 短期借入金：935百万円減少
 - 1年内返済予定の長期借入金：197百万円減少
- 固定負債は、1,507百万円減少
 - 長期借入金：1,411百万円減少
 - 社債：71百万円減少
- 純資産は、当期純損失の計上により3,150百万円減少

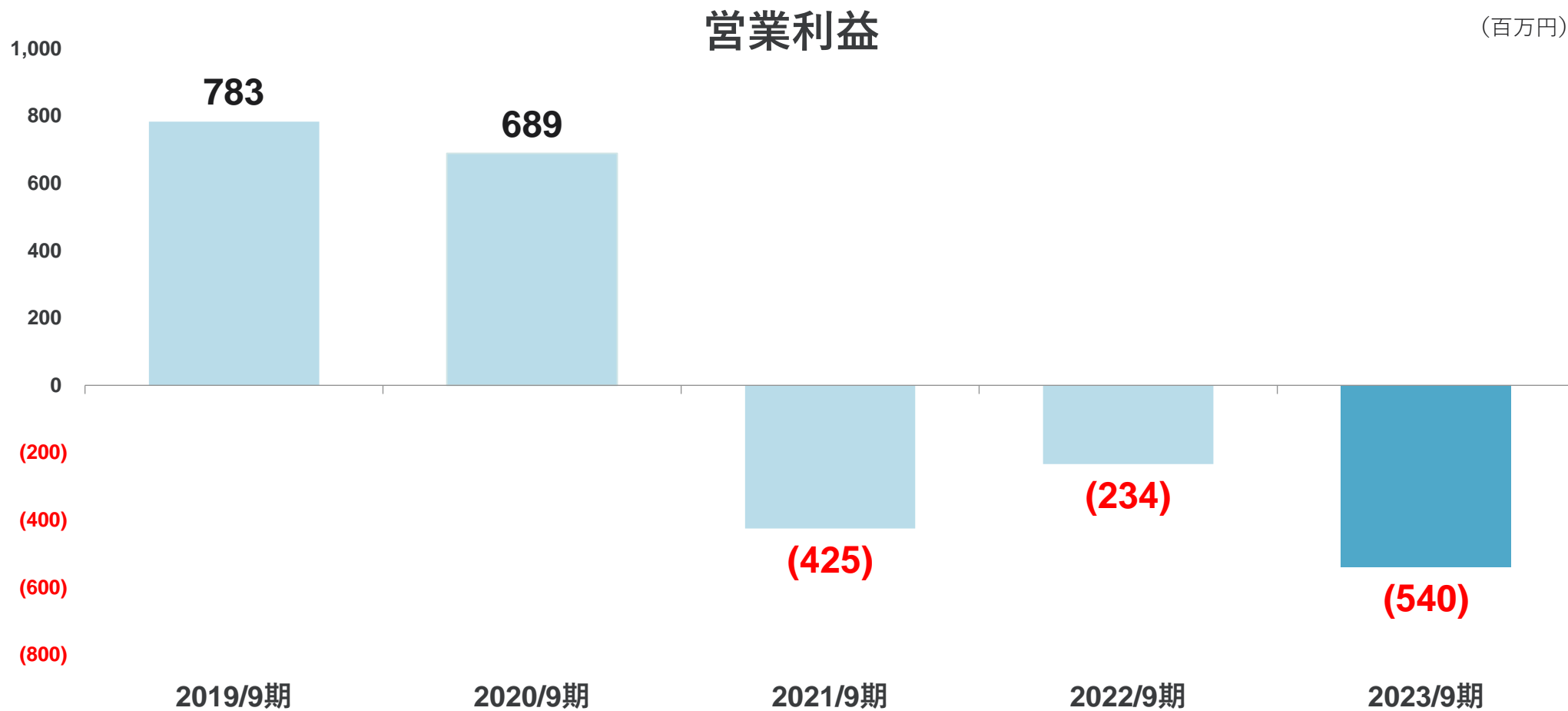
キャッシュ・フローの状況

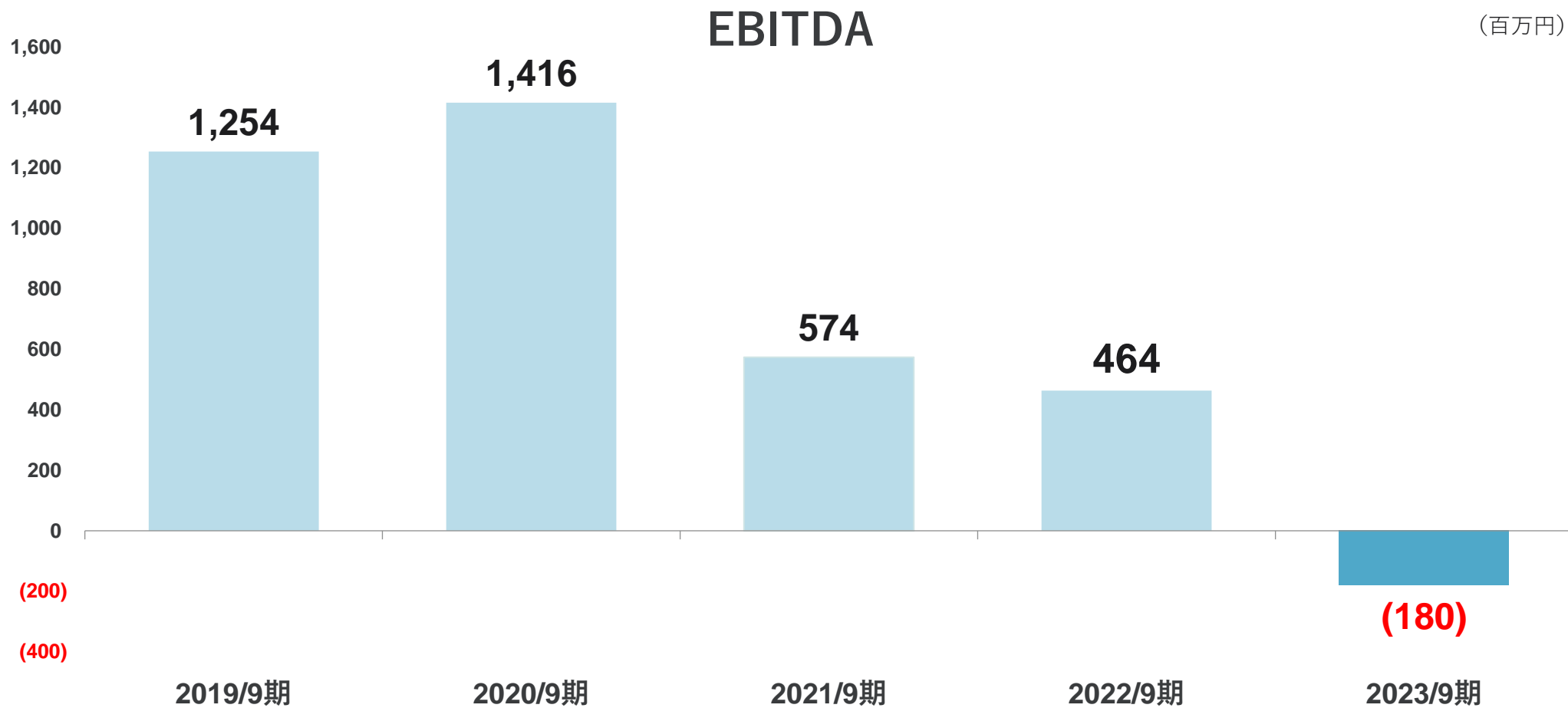
(単位：百万円)

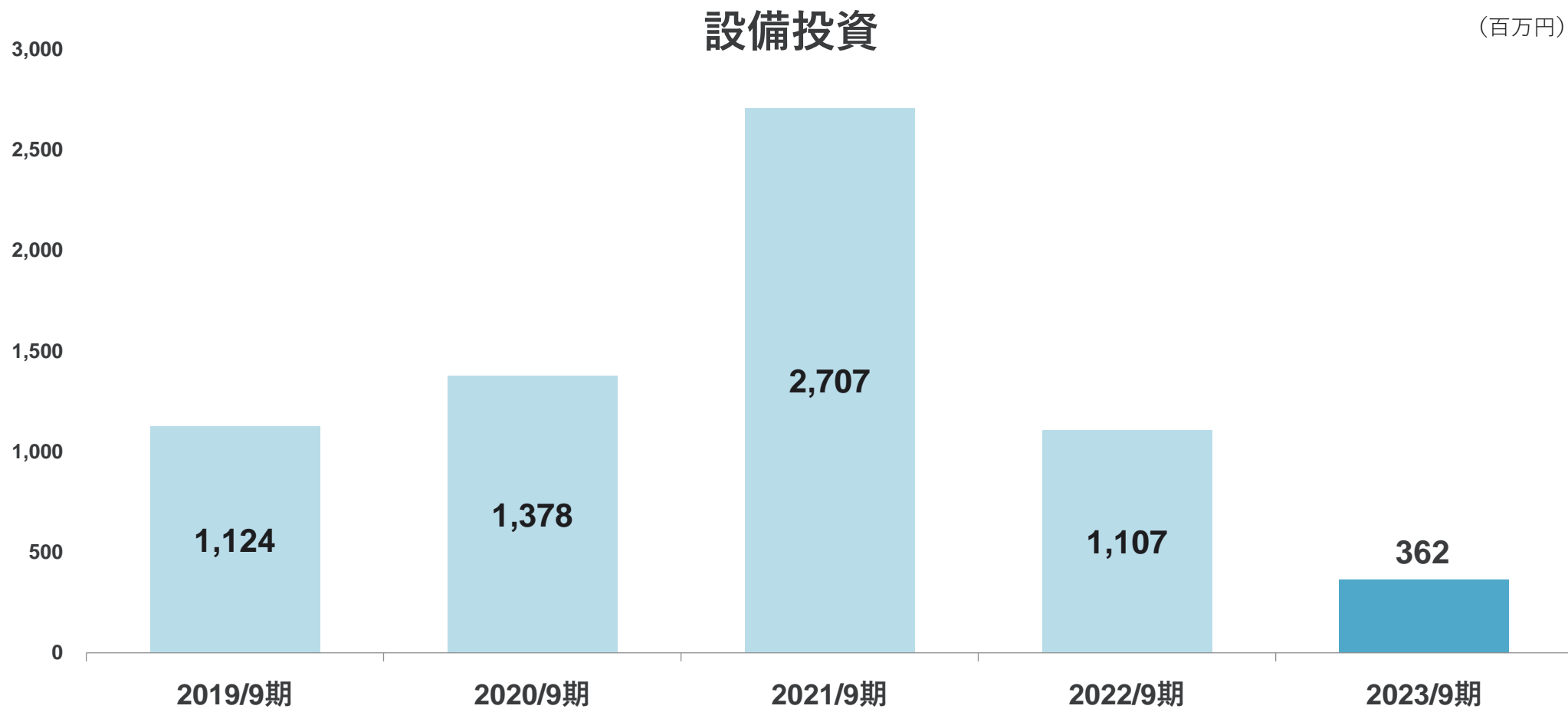
	22年9月期	23年9月期
営業活動による キャッシュ・フロー	△581	336
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,125	1,434
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,251	△2,560
期末現金及び現金同等物 ^(※)	3,441	2,622

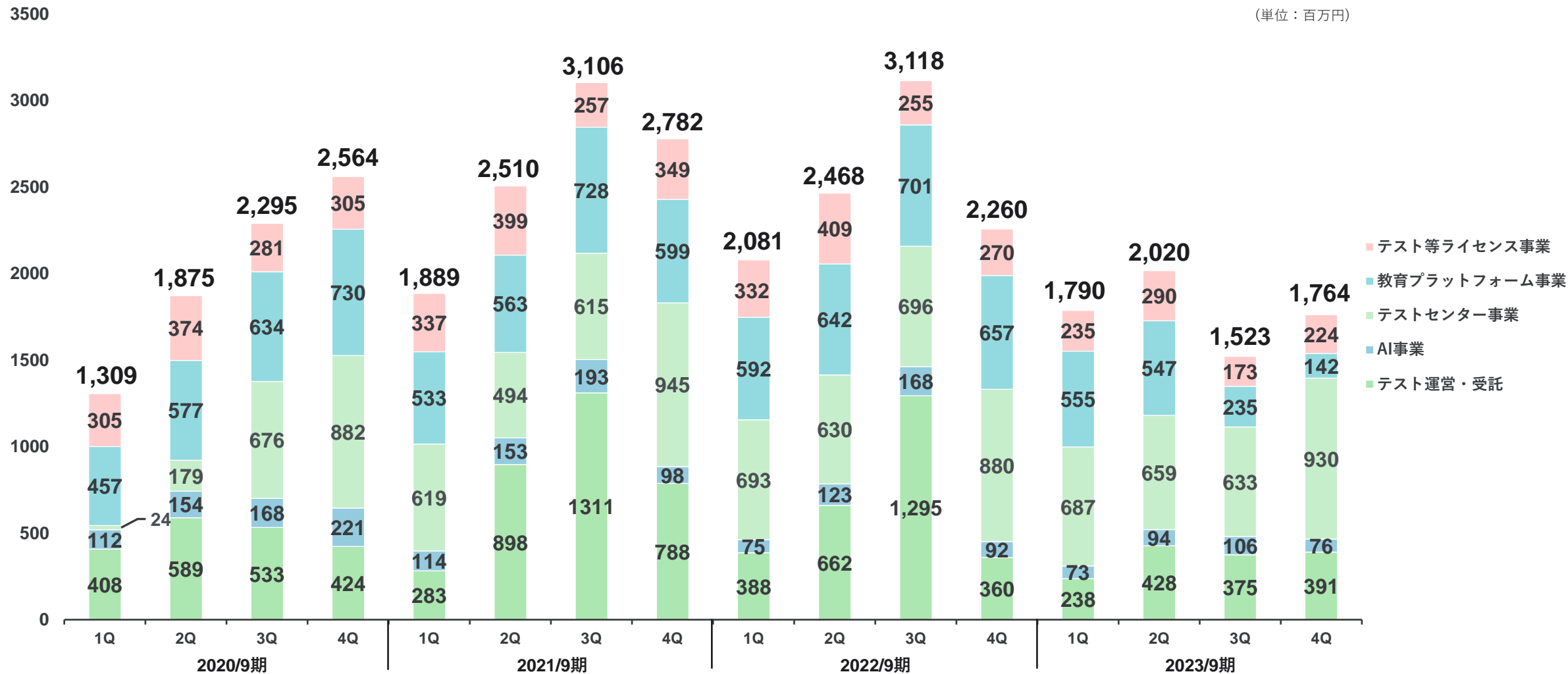
- 営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フローはプラスであるものの、財務キャッシュ・フローのマイナス。
- その結果、期末現金及び現金同等物は、前期比819百万円減少し、2,622百万円となりました
 - 営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳
 - 減少要因：税金等調整前当期純損失（△3,189百万円）
 - 増加要因：減損損失（+2,032百万円）などの非資金支出、売上債権の増減額（+929百万円）
 - 投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳
 - ソフトウェア開発を含む設備投資額は362百万円
 - 減少要因：定期預金の預入による支出（△3,106百万円）、無形固定資産の取得による支出（△330百万円）
 - 増加要因：定期預金の払戻による収入（+4,496百万円）
 - 財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳
 - 長期借入金の返済による支出（△1,630百万円）などの影響











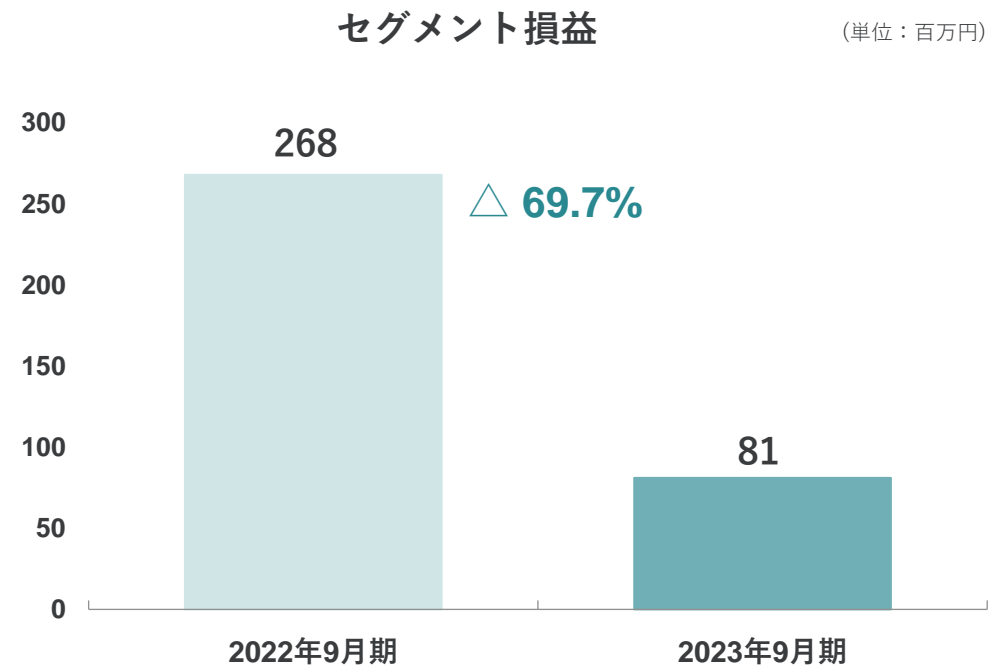
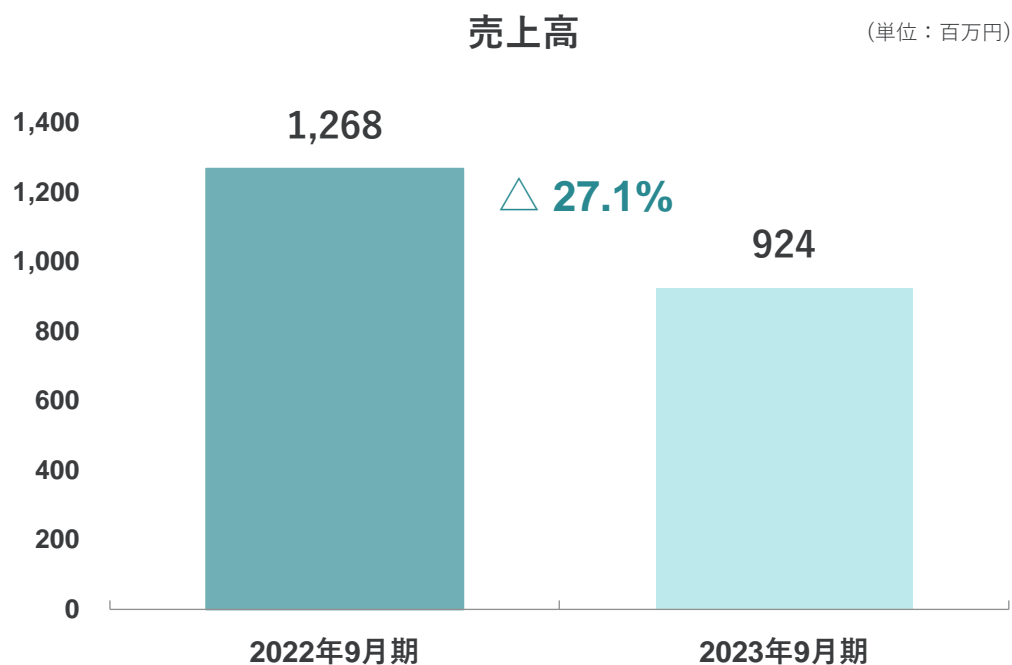
(単位：百万円)

事業セグメント	2020年9月期				2021年9月期				2022年9月期				2023年9月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
テスト等ライセンス事業	95	167	90	90	135	195	79	175	73	156	△4	43	△26	72	△14	49
教育プラットフォーム事業	239	320	399	436	241	222	404	246	132	203	213	181	119	107	△4	△104
テストセンター事業	△28	47	△215	△143	△187	△427	△18	136	91	△70	116	199	29	102	54	148
AI事業	△26	48	85	56	△235	△24	41	△122	△145	25	25	17	1	58	69	△14
テスト運営・受託	△55	59	48	104	△20	108	61	△133	△61	20	49	23	△48	44	△37	16
全社費用	△292	△355	△225	△255	△330	△388	△298	△286	△305	△367	△378	△472	△375	△299	△264	△224

事業セグメント別 実績

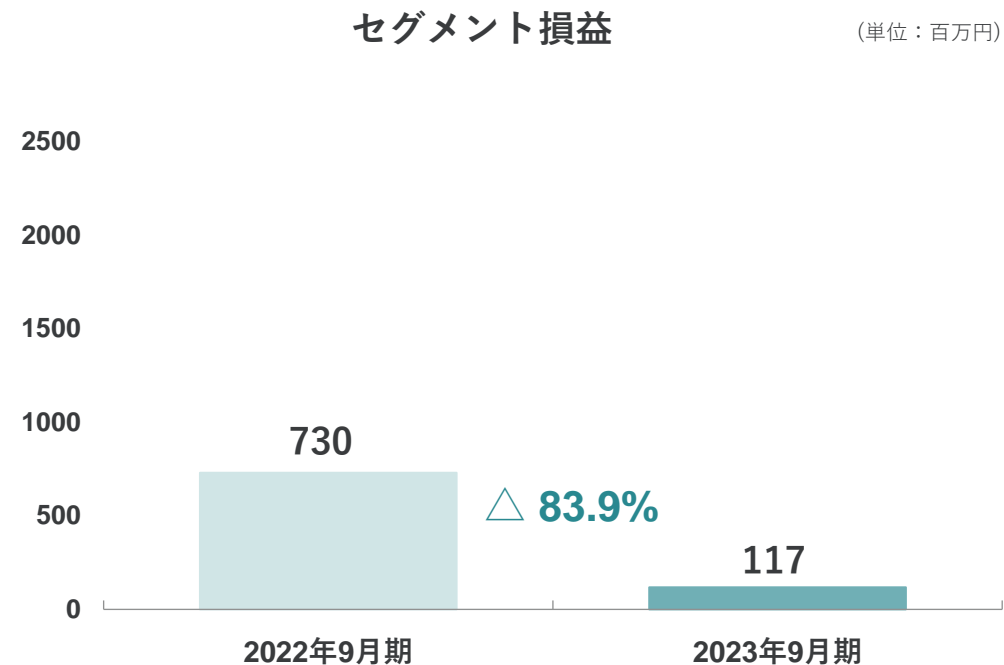
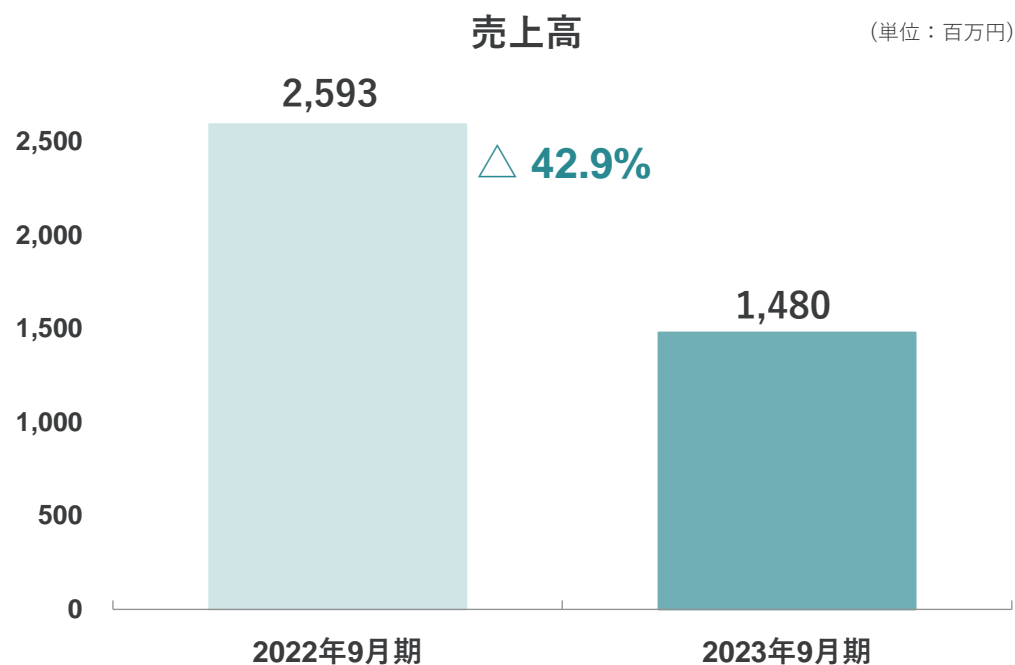
- 英語スピーキングテストに伴うライセンス収入や、企業・学校向け英語能力判定テストの「CASEC」における受験者数の減少の影響を受け、売上高が減少しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 27.1%減**となる**924百万円**、**セグメント利益は同 69.7%減**となる**81百万円**となりました。

売上高・セグメント損益



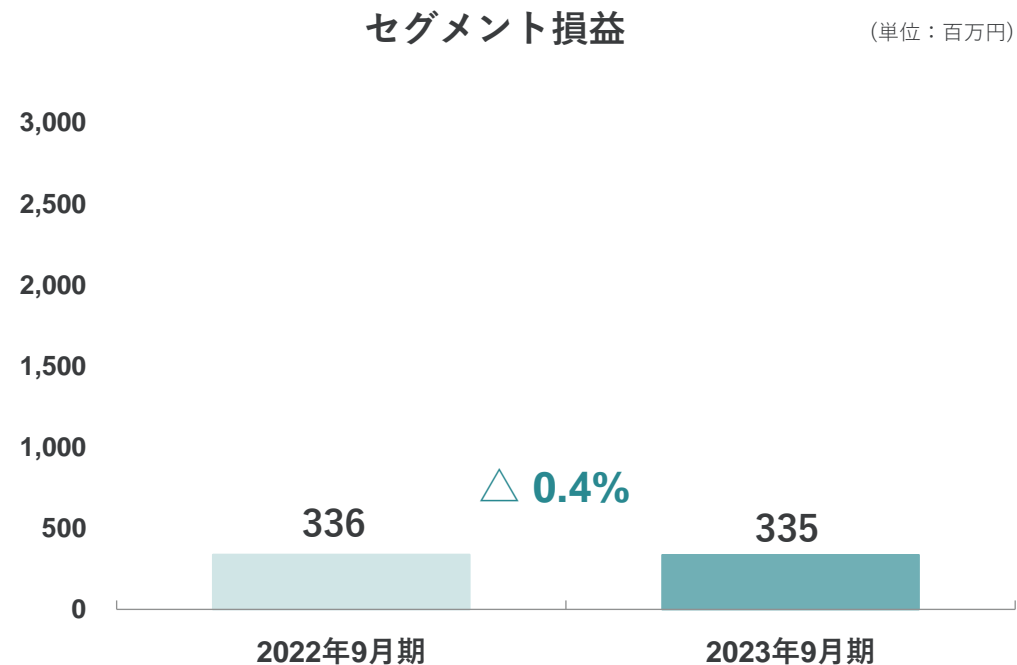
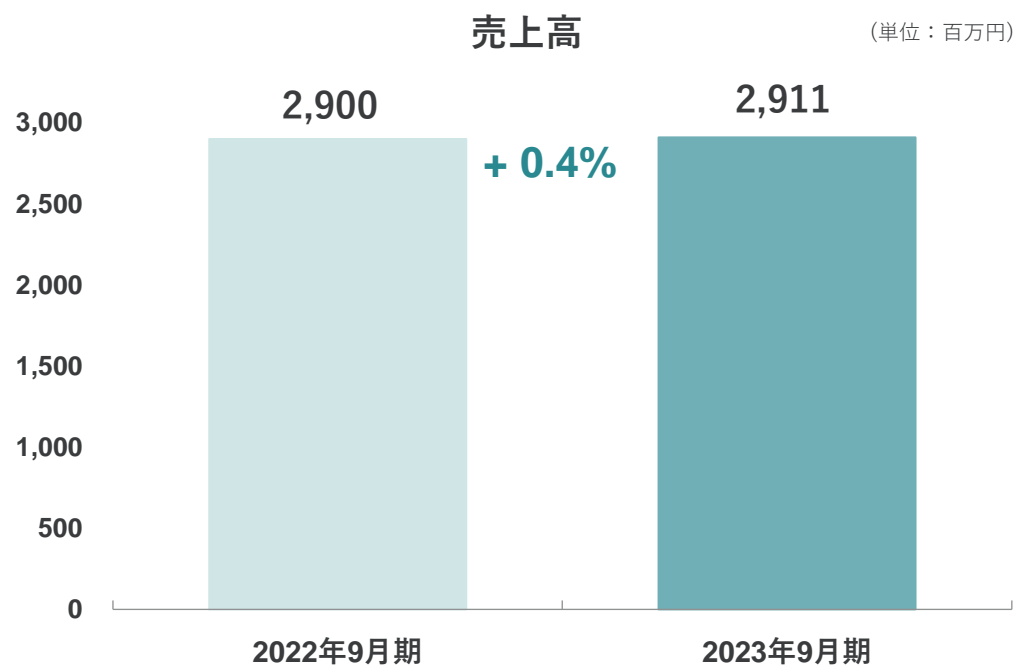
- 当社子会社が特定の顧客に対して提供する語学ラーニングツールの利用に関するライセンス契約が、期間満了日である2023年3月31日付けで終了しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 42.9%減**となる**1,480百万円**、**セグメント利益は同 83.9%減**となる**117百万円**となりました。

売上高・セグメント損益



- テスト市場全体でCBT化が加速し、テストセンター利用者数は今期4Qで約26.6万人（前年同期比20.0%増）と、順調に推移
- 一方で、CBT配信受託業務の一部契約終了に伴い、売上高は前年並みとなりました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 0.4%増**となる**2,911百万円**、**セグメント利益は同 0.4%減**となる**335百万円**となりました。

売上高・セグメント損益

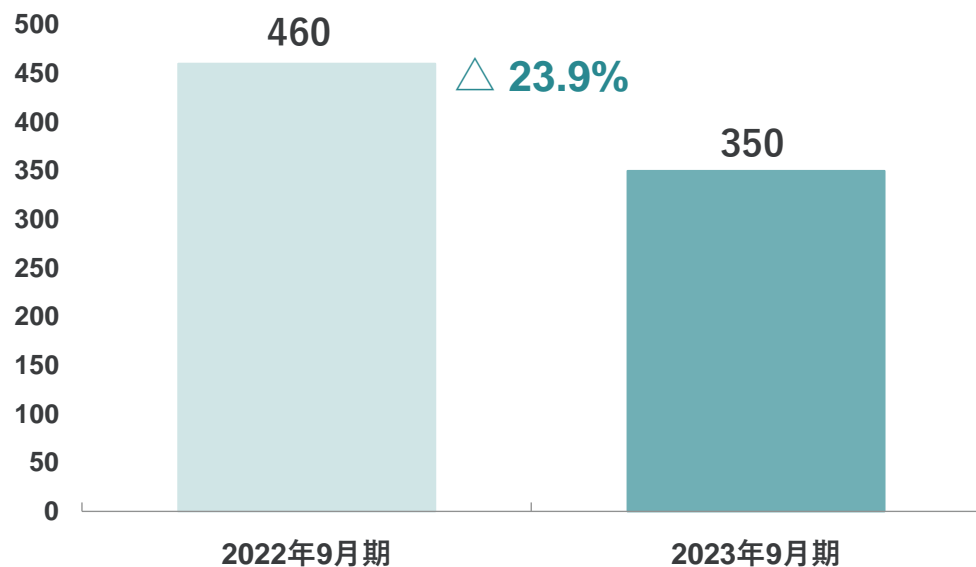


- 手書き文字認識「DEEP READ」に続くAI事業の柱として、ChatGPTを活用したAI自動採点「DEEP GRADE」を提供開始しました。
- 当期は「DEEP READ」のライセンス収入が安定したものの、前事業年度に発生した学力調査関連のライセンス収入が減少しました。
- 中国自習室事業の撤退に伴い、販売管理費の減少等により利益率が改善しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 23.9%減**となる**350百万円**、**セグメント利益は114百万円**（前年同期はセグメント損失76万円）となりました。

売上高・セグメント損益

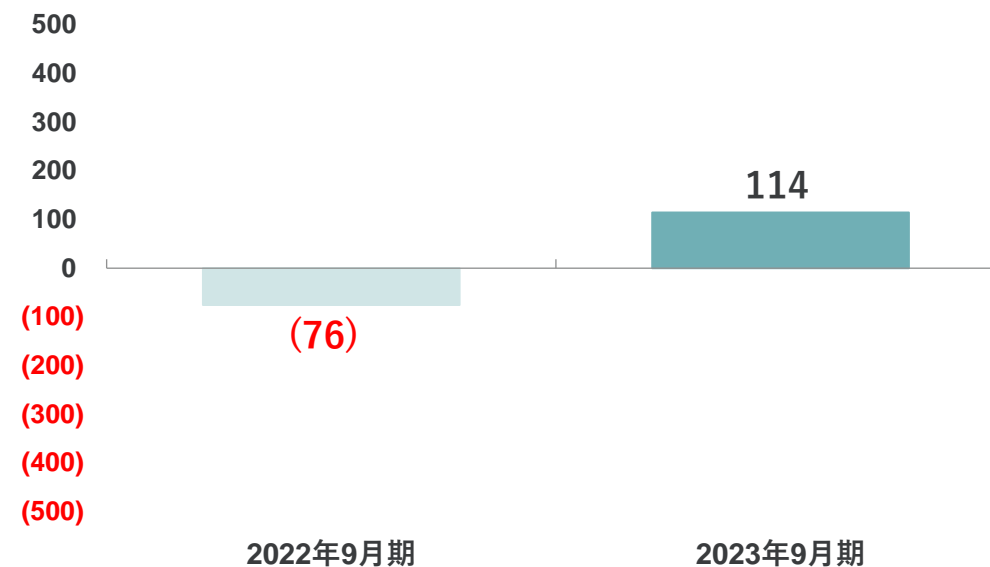
売上高

(単位：百万円)



セグメント損益

(単位：百万円)

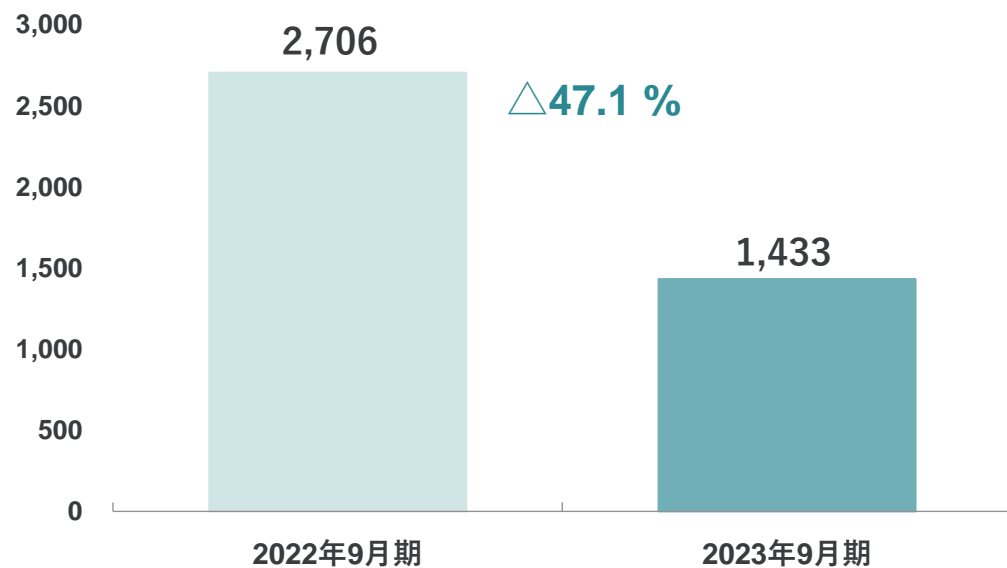


- 前年度に単独で受託した、文部科学省による全国学力・学習状況調査（小学校事業）を、今年度は再委託機関として受託したこと等により、売上高が減少しました。
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 47.1 %減**となる**1,433百万円**、**セグメント損失は24百万円**（前年同期はセグメント利益31百万円）となりました。

売上高・セグメント損益

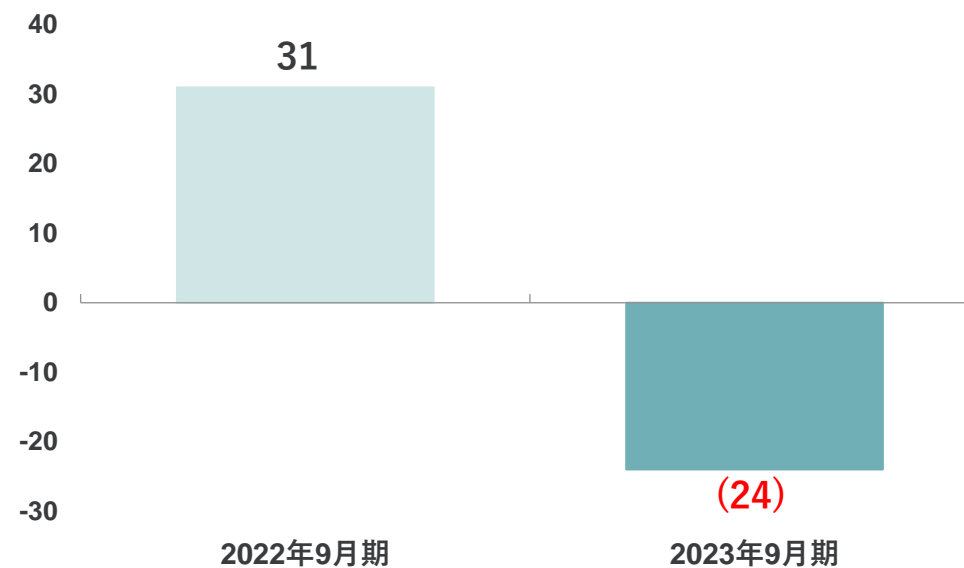
売上高

(単位：百万円)



セグメント損益

(単位：百万円)





2024年9月期 業績予想

- 業績予想につきましては、2023年9月期決算発表と同時の公表を目指し検討を進めてまいりましたが、2024年9月期から2026年9月期までの3カ年を対象にした中期事業計画と併せて精査中であることから、記載しておりません。
- 2023年12月末までに中期事業計画と併せて公表する予定で、早急に検討を進めてまいります。

- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2023年11月13日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。